



学校だより

いちいの木

学校教育目標

「ふるさと 富士山に 学ぶ子」

重点目標 「伸びを認め合う」

小山町立須走小学校

令和2年9月号

今、何をすべきか 何が大切か

前を向く子どもたちから学ぶこと

校長 青木 元広

だれもが、いまだかつて経験のない世の中を、今、歩んでいます。三月から六月まで、ほとんど子どももない学校を過ごし、縮小された夏休み明けと共に、

休校中の学習を取り戻すべく、毎日必死に学んでいる子どもたちです。特に学校として寂しいことは、みんな

で集まって楽しむ催しがほとんどできなくなりました。友達と息を合わせ歌い合ったり、ふれ合ったりすることができなくなりました。

既にご存じのとおり、五月から十月十日に延期された運動会は、二学年（ブロック学年）単位の交代制で実施します。五年生の自然教室、六年生の修学旅行も日帰りの行事としました。

これほどまでに縮小された行事に意味があるのかと思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私たちも、何とか今までの全校で盛り上がる運動会をしたい。宿泊して楽しく語り

合える修学旅行などにしてやりたいという思いは子どもたちと一緒です。

しかし、今は思い出や楽しみよりも大切なものがあります。それは命です。子どもたちと御家族の皆様の健康と安全です。それを思う時、今年は無能な範囲で精一杯の活動をするしかない判断しました。

子どもたちは、きっと落ち込んでしまっただろうと思っていました。ところが、ほとんどの子どもたちはしっかりと前を向き、できることを頑張ろうという強い気持ちを持ってくれていることが分かりました。五年生は一人一役を持ち、日帰りの自然教室を盛り上げるために生き生きと活動しています。六年生は、修学旅行という最大の行事を、自分たちで作ろうと行先や行程を自主的に調べています。また、間近に迫った運動会で、須走小の伝統である金管

を立派に披露したいと、必死に練習する姿は輝いていました。初めて太鼓のリズムが最後まであった時、「やったあ。この達成感、最高。」と叫んでいました。

私たち大人が心配するほど、子どもたちは落ち込まずに、前を見ているのですね。大切なことは、どこに行くか、何をやらしてもらえるかではなく、与えられた条件の中で、自分たちの思いをどう高められるかだと思えます。頼もしい高学年に感心しました。

辛いことばかりかと思いましたが、子どもたちのパワーに勇気をもたらした気がしました。これらの学校生活も、前向きでやる気に満ちた子どもたちを育てていきたいと思えます。



彰徳山林会様 今年も ありがとうございます！

今年もこの夏、彰徳山林会様の厚い御支援により、須走小学校の環境整備がさらに進みました。



← 広庭ゴムチップ舗装

・子どもたちの安全のために、広庭にゴムチップを敷いていただきました。

プール用靴箱→

・プールへの行き帰り用に、靴箱を新しくしていただきました。



← コートローラー・ブラシ

・グラウンドの状態がさらに良くなり、子どもたちが外で元気に運動できます。

体育館用電子黒板→

・上手な演技などを体育の授業中などに、すぐ確認できます。



コロナ感染症対策用の扇風機や消毒液、モップなども購入していただき大いに活用させていただいております。他にも彰徳山林会様には多くの御支援をいただいております。



小山町から
支給された掃除機

よろしくお願ひします

9月より、お2人の先生が勤務されています。

- ・相馬 心み 先生 主に低学年の学習支援等を行います。
- ・武藤 海 先生 主に高学年の学習支援等を行います。

写真で見る学校生活



☆JRC 活動



☆9月1日 引き渡し訓練の様子

今年度の JRC 委員会の活動は、全校に奉仕活動の参加者を募集して「気づき・考え・実行」しています。